●〈症例〉

健常成人に発症した cytomegalovirus 十二指腸潰瘍の 1 例

岡本英子¹⁾ 小田柿智之 松本浩之 藤井俊光
山本満千 櫻井 幸 中川美奈 東 正新
鈴木伸治 岡田英理子²⁾ 荒木昭博 坂本直哉¹⁾
渡辺 守

¹⁾東京医科歯科大学／消化器内科, ²⁾同／光学医療診療部
〔Key Words〕 サイトメガロウィルス, 十二指腸潰瘍

和文要旨

症例は29歳男性。肝機能障害にて入院。心窩部痛を認め上部消化管内視鏡を施行したところ、十二指腸潰瘍を認めた。CMV IgM高値、CMV antigenemia陽性、生検にて核内封入体を認め、サイトメガロウィルスによる十二指腸潰瘍と診断した。免疫異常はなくPPI内服のみにて、治癒傾向を認めた。健常成人におけるCMV十二指腸潰瘍は極めて稀であり、若干の文献的考察を加えて報告する。

はじめに

サイトメガロウィルス (CMV) による消化管病変は、AIDS患者や免疫抑制剤使用患者などの易感染性宿主に日和見感染症としてみられることが多い。健常成人におけるCMV消化管病変についてはここ数年報告がみられるようになったが、十二指腸病変の報告は少なく、稀である。今回、健常成人に発症したCMV十二指腸潰瘍を経験したので報告する。

症 例

患者：29歳、男性。

現病歴：2006年10月23日より発熱、咽頭痛、右上腹部痛を認め、26日当院初診となった。軽度肝機能障害を認めるのみにて、外来精査加療の方針となったが、その後も症状改善せず、11月8日には肝機能障害の増悪を認めたため、同日緊急入院となった。

入院時身体所見：体温37.7℃。皮疹なし、口腔内扁桃腫大や頸部リンパ節腫脹なし。腹部は右上腹部圧痛と、肝を3横指触知した。

入院時検査所見 (Table 1)：AST 374 IU/L, ALT 531 IU/Lと肝機能障害を認めた。CMV-IgGおよびCMV-IgMは高値であり、CMV antigenemia陽性を認めた。肝炎ウィルスマーカーや抗核抗体、抗ミトコンドリア抗体は陰性であった。その他、HIV抗体やヘリコバクターピロリ抗体は陰性であった。

腹部CT：肝脾腫を認めるのみであった。

入院後経過：CMV IgM高値、CMV antigenemia陽性であり、その他の肝疾患が否定的であったことから、サイトメガロウィルスによる肝機能障害と診断した。安静加療と対症療法を開始したが、11月10日頃より著明な心窩部痛を認め、上部消化管内視鏡を施行した。

上部消化管内視鏡：十二指腸球部前壁に不整形の、浅い潰瘍を2カ所認めた (Color 1)。潰瘍底には点状発赤がみられており、通常の十二指腸潰瘍とは異なる所見であった。また、胃内にも前庭部から胃角部にかけてびらんが散在していた (Fig. 1)。十二指腸の潰瘍底から生検を施行し、サイトメガロウィルスに対する免疫染色をしたところ、陽性細胞を認めた (Color 2)。以上より、サイトメガロウィルスによる十二指腸潰瘍と診断し、免疫異常はみられなかったため、PPI内服にて経過観察したところ、症状は改善を認めた。肝機能障害も改善したため退院となり、1カ月後の内視鏡では潰瘍は治癒傾向を認めた。

考 察

免疫異常のない成人男性に、サイトメガロウィルスによる十二指腸潰瘍を認め、PPI内服のみにて治癒傾向がみられた一例である。本邦において、健常成人に

Table 1 Laboratory data on admission.

WBC	7200/ μ L	TP	6.7 g/dL	IgG	1313 mg/dL
Seg	0%	Alb	3.6 g/dL	IgA	209 mg/dL
Band	44.50%	BUN	8 mg/dL	IgM	285 mg/dL
Lymph	50.50%	Cre	0.79 mg/dL	CMV-IgM	17.07
Mono	3.50%	T-Bil	0.6 mg/dL	CMV-IgG	18.6
Eosino	1.50%	GOT	374 IU/L	CMV antigenemia	陽性セル 4/9
Hb	13.9 g/dL	GPT	531 IU/L	EBV-IgM	<10倍
Ht	42.40%	LDH	623 IU/L	EBV-IgG	320倍
Plt	23.2万/ μ L	ALP	267 IU/L	HBV, HCV, HAV	(-)
		γ -GTP	86 IU/L	HIV抗体	(-)
		CRP	1.8 mg/dL	抗pylori抗体	(-)

Fig. 1 Endoscopic findings showed erosion in the angulus of the stomach.

Table 2 Case reports of duodenal lesions associated with cytomegalovirus infection in healthy adults.

症例	年齢/性別	内視鏡所見		CMV診断	治療
		十二指腸	胃		
1)	38歳/男	発赤、びらん	地図状不整形潰瘍	封入体、CMV IgM(+)	Ganciclovir
2)	33歳/男	びらん	びらん	封入体、CMV IgM(+)	PPI
3)	28歳/男	潰瘍	(-)	封入体	PPI
4)	26歳/男	びらん	びらん	CMV IgM(+)	PPI
5)	61歳/男	多発潰瘍	(-)	CMV IgM(+), CMV-DNA(+)	Ganciclovir
6)	18歳/女	びらん	(-)	CMV IgM(+), CMV-DNA(+)	記載なし
本例	29歳/男	不整形潰瘍	びらん	封入体、CMV IgM(+)	PPI

おけるサイトメガロウイルスによる十二指腸病変はこれまで6例の報告しかみられず、極めて稀である¹⁻⁶⁾(Table 2)。十二指腸の内視鏡所見としては、白苔を有する小隆起⁶⁾やびらん^{1,2,4)}、潰瘍^{3,5)}など報告され、多彩であり一定の傾向はみられなかった。本症例を含めた7例で治療方針を比較すると、PPIもしくは経過観察のみで改善した症例が5例と多く見られた。PPIで改善せずGanciclovirの投与を要した症例は1例報告されているが¹⁾、健康成人の十二指腸病変に対しては、Ganciclovirなどの抗ウイルス療法を全例で投与する必要はなく、多くはPPI投与など対症療法のみで治癒が期待できると考えられる。

文 献

- 1) 笠井丈博, 宮内和誠, 斉藤亜呼, 他: 健康成人に発症した抗ウイルス剤投与を要した際とメガロウイルス関連胃十二指腸病変の1例. *Gastroenterol Endosc*, 50: 899, 2008.
- 2) 白上洋平, 後藤尚絵, 西脇伸二, 他: 健康成人に発症したサイトメガロウイルス胃十二指腸炎の1例. *日消病会誌*, 109: 1377—1382, 2007.
- 3) ト部祥明, 上村雅之, 谷口英明, 他: 健康成人に発症したサイトメガロウイルスによる肝炎合併上部消化管潰瘍の2例. *日消病会誌*, 100: 987—991, 2003.
- 4) 小道大輔, 藤村次郎, 末永敏彰, 他: 健康成人に発症したサ

イトメガロウイルス関連性急性胃十二指腸炎の1例. *消化器科*, 32: 605—610, 2001.

- 5) 樋口佳奈子, 田代博一, 石田順朗, 他: 抗サイトメガロウイルス剤が奏功した十二指腸潰瘍の1例. *Prog Dig Endosc*, 55: 44—47, 1999.
- 6) 吉川誠之, 堀浩太郎, 北野雅之, 他: DNA診断が有用であった健康者サイトメガロウイルス腸炎の1例. *日消病会誌*, 90: 2926—2930, 1993.

〈カラーは4頁に掲載〉

A case of duodenal ulcer with cytomegalovirus infection

Eiko Okamoto ¹⁾	Tomoyuki Odagaki
Hiroyuki Matsumoto	Toshimitsu Fujii
Machi Yamamoto	Yuki Sakurai
Mina Nakagawa	Seishin Azuma
Shinji Suzuki	Eriko Okada ²⁾
Akihiro Araki	Naoya Sakamoto ¹⁾
Mamoru Watanabe	

¹⁾Department of Gastroenterology and Hepatology, ²⁾Department of Endoscopic Diagnosis and Therapeutic, Tokyo Medical and Dental University.